

研究タイトル: 集落の持続的な土地利用管理に関する研究と計画提案



氏名:	小椋 弘佳 / OGURA Hiroka	E-mail:	ogura@yonago-k.ac.jp
職名:	准教授	学位:	博士(工学)
所属学会・協会:	日本建築学会, 日本都市計画学会		
キーワード:	都市・農村計画		
技術相談 提供可能技術:	<ul style="list-style-type: none"> ● 地方都市や集落の土地利用に関する調査 土地利用や土地所有、管理計画に関する調査研究および計画提案を行います。 ● 地域に根ざした建築のあり方の提案 地域に根ざした建築のあり方についての提案を行います。 		

研究内容: 地方都市の集落における土地利用管理に関する研究

現在、地方都市の多くの地域では、人口・世帯減少や後継者不足などの問題を抱え、集落維持が困難な状況にあります。地域の持つ独自の資源、あるいは地域固有の価値を見だし、地域再生に活かすことが必要になります。そのような地域再生の方策を考える上での基礎的調査研究を行います。また、調査研究から得られた知見に基づき、実際の計画を提案します。主な研究や活動を以下に記します。

[1] 国立公園内集落の実態解明と土地利用規制・制度上の課題抽出

本研究は、国立公園の景観維持や地域資源管理の担い手が住まう可能性の高い国立公園集団施設地区を対象に、以下の3つの視点から地区内集落の実態解明と土地利用規制・制度上の課題に関する研究を進めています。

- ① 土地利用規制(集団施設地区制度, 公園事業制度等)の整理
- ② 国立公園周辺の人口・世帯分布の空間化(図1)
- ③ 集団施設地区内集落における土地利用・土地所有構造とその変遷の空間化(図2)

①では、集落に密接に関わる土地利用規制である国立公園制度のうち、特に人々の生活の場に関係する集団施設地区や公園事業制度について、集落維持の視点からみた特徴をまとめています。また、③の土地利用・所有実態調査では、②の人口・世帯分布調査で存在が明らかとなった集落のうち代表タイプにおいて、関係市町村所管の土地台帳や地籍図を用いて、土地利用・土地所有現況図を作成し、土地所有の観点からみた土地利用管理上のキーパーソンの有無や今後の担い手創出の可能性を探ります。

集落独立型：大山寺集団施設地区の人口分布

地区周辺には人口がない。そのため、地区内の魅力を高めていくことが必要となるが、それと同時に近接する普通地域の居住者と連携した取組みに向けた方策が必要となるといえる。

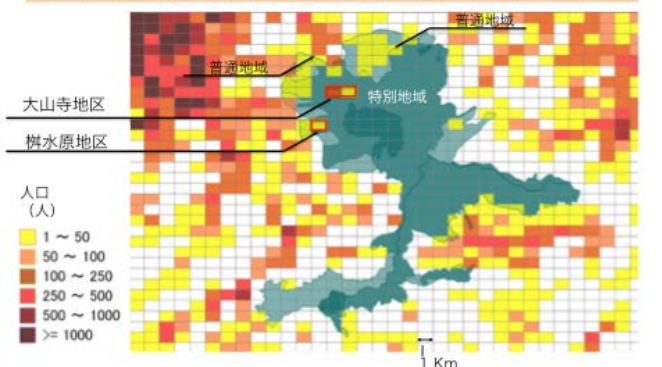
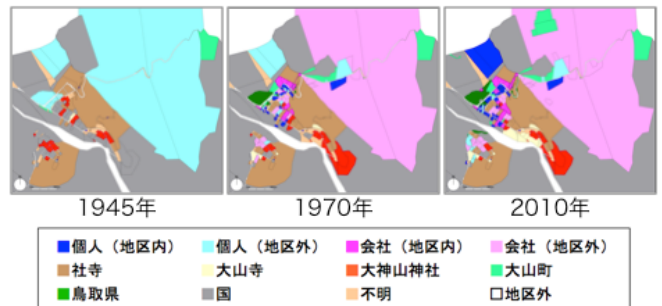


図1. 地理情報システムを活用した国立公園周辺の人口分布の空間化

大山寺集団施設地区における1945年-1970年間と1970年-2010年間の土地所有別変化



1945年の土地所有は、個人(地区外)・公有地・社寺・大神山神社の所有が占めていることがわかる。また、1945年から1970年にかけて所有形態が大きく変動していることがわかる。

図2. 地籍図、土地台帳を用いた土地所有構造の空間化

研究内容:

[2] 山岳信仰集落の土地利用管理に関する研究

本研究は、人口減少社会下での集落維持を目指した既存集落の自治による持続的かつ適正な土地利用管理のあり方に着目した研究です。前近代から存続する歴史的集落である山岳信仰集落を持続可能な集落のモデルとして選定し、集落の土地利用管理の実態解明を通して、今後の土地利用管理のあり方への示唆を得ることを目的としています。分析は、1)集落の形成過程、2)土地利用と土地所有変化、3)住民意識、4)地域組織間ネットワーク(図 3)、5)土地・建物の管理実態の 5 項目とし、集落の「土地」とそれを管理する「人」の視点から実証的に検討し、集落単位の土地利用管理計画のあり方を提示しています。

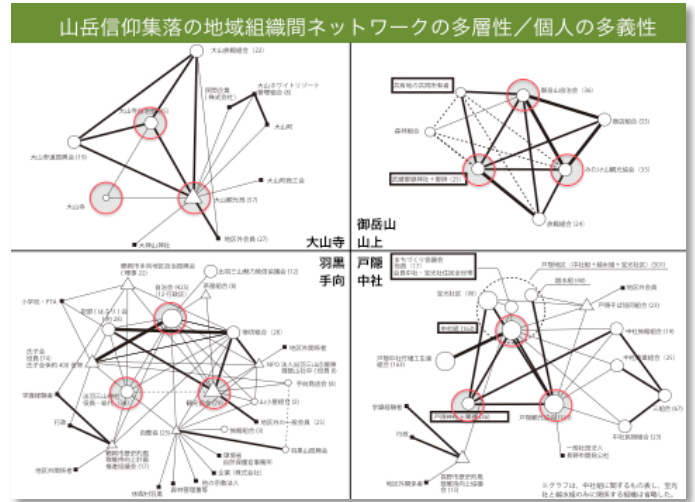


図 3. 集落内の地域組織間ネットワークの可視化

[3] 地形的末端集落である鳥取県日野郡日南町秋原集落での耕作放棄地ピオトープ計画

本活動では、本科4・5年生が鳥取県日野郡日南町の中山間地域の小規模農村集落において、古民家民宿を拠点として農業やまちおこしの継続を目指した取り組みへ参加しています(写真 1-3)。

・細田智久・小椋弘佳: 中山間地域での自然・農業体験, ピオトープ計画による高専生への教育効果の考察-鳥取県日南町の古民家「かつみや」を拠点として-, 論文集「高専教育」, 第 36 号, pp.417-422, 2013



写真 1. 耕作放棄地ピオトープ計画対象地 写真 2. 住民+NPO 法人+学生のワークショップ 写真 3. 住民+学生のワークショップ

担当科目	創造設計実習(専攻科), 都市計画, 設計製図, 建築計画, デザイン基礎
過去の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・商店街の公園化によるまちのリノベーション戦略 -とっとり方式の定式化 -(鳥取県環境学術研究等振興事業 地域振興部門, 研究期間:2017-2019 年度) ・居住環境向上を目指した低・未利用地の共同管理の実態分析と体制づくり(科学研究費助成事業若手研究 B【17K14789】, 研究期間:2017-2020 年度) ・地方商業空間に生み出されるパブリックスペースの地域拠点としての役割と発展性の解明(科学研究費助成事業若手研究【21K14330】, 研究期間:2021-2024 年度)
近年の業績 (研究・教育論文、特許含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・いんしゅう鹿野まちづくり協議会著: 地域の未来を変える空き家活用, ナカニシヤ出版, 2021.2 (小椋担当ページ, 第二部第二章まち協による空き家活用の全体像, pp.159-173) ・小椋弘佳・田川桜・細田智久: 大山町A地区における空き家の状況と活用可能性に関する研究, 日本建築学会技術報告集第 26 巻 第 64 号, pp.1120-1125, 2020, 査読あり ・小椋弘佳・樋口秀: 国立公園内に位置する大山寺集落と御岳山山上集落の土地利用管理に関する研究, 日本建築学会計画系論文集, Vol.81 No.722, pp.921-931, 2016, 査読あり ・小椋弘佳・樋口秀・細田智久・熊谷昌彦: 国立公園の利用促進等に向けた集団施設地区の課題と取り組み実態に関する研究 -集団施設地区内の集落規模に着目して-, 日本建築学会計画系論文集, Vol.80 No.716, pp.2261-2271, 2015, 査読あり